



2025年 5月15日

各 位

会社名 株式会社Speee
代表者名 代表取締役 大塚 英樹
(コード番号：4499 東証スタンダード)
問合せ先 取締役CFO 西田 正孝
(TEL. 050-1748-0088)

2025年9月期第2四半期決算説明会（動画）及びQ&A

2025年5月15日（水）に、株式会社Speee（本社：東京都港区、代表取締役：大塚英樹、以下：当社）の2025年9月期第2四半期決算説明会を行いました。

2025年9月期第2四半期の決算説明資料のご説明と、直近投資家様からいただくことが多い主なご質問に対する回答に関して動画とレポートにてご報告いたします。

■決算説明会 動画

当社代表大塚、取締役久田よりお話ししました内容につきましては、以下URLよりご視聴ください。

<https://youtu.be/TkCNyvhRpg>

0:00 ~15:07 : 決算説明資料のご説明

15:08 ~26:58 : 投資家様からよくいただくご質問に対する回答

■Q&Aレポート

Q. ステータブルコイン発行の進捗状況を教えてください。

ストレートにお話させていただくと、既に開示をさせていただいているとおり、発行システムについては開発を完了していて、セキュリティについては、これは皆さまご存知のとおり、他社様における暗号資産等の流出等の報道がございまして、セキュリティの見直しをしていたというところでございます。

さらに、行政手続きですね。金融庁への行政手続きに時間がかかっていたというところで、ステータブルコインの発行が当初想定よりも遅れているという状況でございます。

ストレートにお答えするとこういった回答になるんですけども、せっかくいただいた機会ということでございますので、加えてお話をさせていただきます。

こういった当初想定よりもステーブルコイン発行が遅延していること、加えてこれは必ず必要だったことなんですけども増資/売り出しというイベント、また3点目に（次の質問でも触れますが）他社様の粗利300億というご発言・報道があり、こういったものを主要なイベントとして株価が、継続的に下落しているという認識を持っています。それについては大変心苦しく遺憾に思っています。またそれに伴う株主の皆様からのご意見というところも、しっかり私達に届いていますし、我々経営陣としてもしっかりと受け止めております。

それに対して我々が何をできるかというところについては、確実に事業をしっかりと進捗させて、収益を上げていくということと、IRをしっかりとして株価に対する対策をしていくということが重要だなというふうに考えています。

もう一つ最後に付け加えたいのですが、これは従前から話していたことの繰り返しとなるんですけども、やはりステーブルコインを発行するだけでAUM（発行残高）が増え収益が上がるというのではなく、流通して実際に使われてこそ発行残高が上がっていくものです。Project Paxに代表されるような流通システムというのは、年内に実用化予定というところを出させていただいて、それで初めて実際にステーブルコインの収益が上がっていくというところがございます。

ですので、ステーブルコインの発行が遅れているからといって、我々の事業に対する見立てに悪影響があるわけではないというところだけ、最後に付け加えさせていただけたらと思います。

Q. 他社のニュース記事で、”ステーブルコインを含む新規事業領域で2034年に粗利300億円を目指す”との発言がありましたが、それに対する見解はありますか。

このご質問については答え方が難しいと思っています。こちらをまずストレートにお話すると、やはり他社様のご発言でございますので、それについて私達がなにか言う立場にないというのがストレートなところなんですけども、これもせっかくの機会ですので、できる限りの形で私見を申し上げます。

まず、300億円という粗利が大きいのか小さいのかというところですか。たとえば仮に、我々のステーブルコイン事業が立ち上がって、コストが10億20億と増えていくのに対し、300億の粗利がでたときに、どの程度の営業利益がでるのだろうか。またそこからざっくりと純利を出すために、0.7掛けしてどれぐらいの純利益になるか、さらにブロックチェーンなのでハイテク銘柄とみられると、PERが50倍60倍70倍となって、営業利益から純利益、また純利益とPERをかけていくと、どれぐらいの企業価値が期待できるのかというところはあると思いますし、ご計算いただくと相応に非常に大きな規模になるのかなと。

それに対して、Speeeの今の企業価値はどうなんだろうかというのは、思うところではあります。（仮に粗利が）300億じゃなく、その3分の1の100億だったとしても、かなり大きな数字になるのかなと思っています。

こういった新規事業の見立てを、積極的に見るかニュートラルに見るか、非常に保守的に見るかというのは、各社それぞれ違うのかなと思っていて、我々は引き続きデカコインを目指していくというところはぶれていないんですけれども、その中でも300億という粗利は本当に小さいんだろうか？と思うところがあつたかなと思います。

ご質問に対するストレートなお答えと、こちらも補足をお話させていただきました。

Q. Project Pax のフェーズ2について詳しく教えてください。

先ほどの大塚のプレゼンにもあったんですけども、まずフェーズ1はDatachainとProgmaticが開発するようなAPIを用いた形で、Swiftと連携してステーブルコインの送金をしていくというところで、もう一つは日本の3メガバンクさんにご参画いただいてご報告し、レビューいただいてしっかりと完了をしているというところでございます。

フェーズ2については、既にリリースが出ているところで香港や韓国、さらにこれから欧州米国もしっかりとプレスを出せていけたらなと思います。国際送金ですから、グローバルな海外の金融機関様も増やしていく、また日本でも商工中金様のような形で、3メガバンクさん以外にもどんどん増やしていく予定です。

さらに、これから金融機関だけではなく、企業様のリリースもしっかりとした形で出せていけるといいかなと思っております。そういう参画するステークホルダーの方が増えていくということ。さらにAPIだけではなくSwiftの電文を使う形で、ステーブルコインを送金していくとどうなるんだろうか、はたまた既存の電文を送信するシステムを使ったらどうなるんだろうか、というようなところも出していけるといいかなと考えています。

システム構築だけじゃなくて、実務のフィジビリティが本当にステーブルコインをやっていく上でも無理がないのかというところを詰めていければと思いますので、フェーズ1、フェーズ2において順調に進捗しているのかなというふうに思います。

Q. 米国のステーブルコイン法案をどのように捉えているか教えてください。

こちらについては、端的に申し上げるとポジティブに捉えています。

私たちDatachainは最初から銀行発行のステーブルコイン、銀行で使われるような適法に、ステーブルコイン法案があるところでやっていくというスタンスですので、たとえばUSDTのような規制に従わない形で、特にクリプト（暗号資産）のユースケースでやっていくわけではないですし、ドルは当然、世界

最大の基軸通貨でございますので、この法案が進んでいることがポジティブというのがまず一つあります。

その中でも当然、上院が議論しているGENIUS法案と、下院が議論しているSTABLE法案、それぞれがうまく通ってくれば良いと考えてますが、当然通るにはハードルがあるのも認識しています。

例えばcorruption（腐敗・汚職）ですね、ひょっとしたらトランプ氏にお金が流れていくんじゃないかという議論もあれば、我々もずっと議論してきましたけれどもAML（マネー・ローンダリング防止対策）をどうしていくのかという話もありますし、既存の金融システムに対してステーブルコインはどういう影響を与えるのか、ステーブルコインに対して違反をした時にどのような制裁を加えていかなど、様々な議論があるうえで法案というのは通っていくものなので、それを注視していますし、それに対してすぐ動けるように米国の金融機関とも話しているという状況でございます。

もう一つ加えさせていただくと、トランプ氏はCBDC（中央銀行発行デジタル通貨）についても言及していて、彼が非常に消極的である点は、割と世界に影響が出ているかなと思います。ステーブルコインにとっては、追い風であると言えるかなと思っています。

CBDCには2種類あり、ホールセールCBDCとリテールCBDCです。（一部中略）いま一般的に議論されているホールセールCBDCがないと、（ステーブルコインと）同じように決済性のブロックチェーンのトークンであるトークナイズド・デポジットは預金なので、ホールセールCBDCがないと他行宛の送金がデジタル完結しない点があります。

そのためCBDCが遅れるというのはトークナイズド・デポジットにとってやや向かい風、結果的にステーブルコインにとって追い風になるかなと思っていますので、この米国の動き自体は前向きに捉えています。

以上、久田より回答申し上げます。

■会社概要

社名 : 株式会社Speee
事業概要 : 金融DX事業、レガシー産業DX事業、DXコンサルティング事業
設立 : 2007年11月
所在地 : 東京都港区六本木三丁目2番1号
代表者 : 代表取締役 大塚 英樹
証券コード : 4499（東証スタンダード市場）
URL : <https://speee.jp/>

■本件に関するお問い合わせ
株式会社Speee IR担当 ir@speee.jp